

取扱注意

発明規程様式第1号（発明規程第6条関係）

記入例

平成〇年〇月〇日

甲南大学長 殿

届出代表者

所属・職名

理工学部 物理学科・教授

氏名

甲南太郎 印

届出代表者および部局所属長の  
押印を忘れないようにする。

所属長



発明等届出書

下記の発明等をしましたので、甲南大学発明規程第6条の規定に基づき届け出ます。

記

発明等の種別を必ず選択すること。

発明等に関する事項

1. 発明等の名称	背もたれが折りたためる椅子		
2. 発明等の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 発明 <input type="checkbox"/> 考案 <input type="checkbox"/> 意匠 <input type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> 回路配置 <input type="checkbox"/> 新品種 <input type="checkbox"/> プログラム又はデータベースの著作物 <input type="checkbox"/> 成果有体物 <input type="checkbox"/> ノウハウ		
3. 発明者の名称	※ 学外者と共同で発明等を行った場合は、 <u>学外者の記載欄は、押印無し</u> でご記入ください。但し、発明等の寄与度は、 <u>学内の方のみ合計で100%</u> になるようにご記入ください。学外者については、-にしてください。		
	氏名	所属・職	寄与度
	届出代表者		60%
	甲南 花子 印	理工学部 物理学科 准教授	40%
	神戸 一郎 印	フロント株式会社 開発部 主席研究員	-%
	印		%
	印		%
	印		%
4. 共同出願人の名称	※ 100% - 共同出願人の権利持分 = 学園の権利持分		
	名称	住所	寄与度
	フロント株式会社	神戸市東灘区岡本1-2-3	50%

取扱注意

5. 発明等に関する 発表状況	<input type="checkbox"/> 未発表 <input checked="" type="checkbox"/> 発表済または発表予定	
	(以下に該当する場合は、□にチェックを入れてご記入ください。)	
	<input type="checkbox"/> 刊行物に発表 [刊行物名：                    ]	
	[発行予定日または発行日： 平成    年    月    日    ]	
	<input checked="" type="checkbox"/> 学術団体における研究集会で発表 [学術団体名または研究集会名： <u>応用物理学会</u> ]	
	[予稿集の発行予定日または発行日： 平成    年    月    日    ]	
	[発表予定日または発表日： <u>平成19年12月1日</u> ]	
	<input type="checkbox"/> その他 [その他：                    ]	
6. 外国出願の希望 の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 希望する。 <input type="checkbox"/> 希望しない。	
	希望出願国名： <u>米国</u>	
	希望理由： <u>米国市場への波及がもたらせることが予測されるため。</u>	
7. 出願の緊急性	<input type="checkbox"/> 通常 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急 (期限： <u>7月30日</u> )	
	理由： <u>学会等発表を予定しているため。</u>	
8. 発明等に使用し た研究経費 〔複数のチェック 可能〕	<input type="checkbox"/> 大学 (学園) の研究費 <input type="checkbox"/> 学園助成金による研究 (平生基金等) <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究費 <input type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 奨学寄附金等 <input type="checkbox"/> 省庁・財団等の補助金、助成金 <input type="checkbox"/> その他	
	9. 研究課題名等	
	(※学園助成金、共同研究費、受託研究費、科学研究費補助金、奨学寄附金、省庁・財団等の補助金、助成金にチェックした場合は記入すること。)	
	研究課題名	●●の研究開発
	研究費提供機関	フロント株式会社
	研究期間	平成19年4月1日から平成20年3月31日
	研究代表者	甲南 太郎
	10. 発明等にかか る学外者との関係 (該当項目をチェック してください。)	<input type="checkbox"/> 独自 (単独) の発明等
学外者との共同研究による発明等<契約書の有無> <input checked="" type="checkbox"/> あり、 <input type="checkbox"/> なし		
学外者との受託研究による発明等<契約書の有無> <input type="checkbox"/> あり、 <input type="checkbox"/> なし		
<input checked="" type="checkbox"/> 共同出願の必要性 (要)		<input type="checkbox"/> 共同出願の必要性 (否)

<添付書類>

**取扱注意**

以下の書類を添付してください。

- (1) 発明等内容説明書（様式第1号 別紙A）
- (2) 発明評価書（様式第2号）
- (3) 外国出願要請書（※ 外国出願を希望する場合）
- (4) その他必要となる資料（FDかCD添付、特許文献など）

※ フロンティア研究推進機構事務室記入欄（記入不要）

事務室記入欄	受付日	平成 年 月 日	整理番号	
	発明委員会審議日	平成 年 月 日		
	決定事項	職務発明等に 該当する ・ 該当しない 学園が 承継する ・ 承継しない		
	決定通知年月日	平成 年 月 日		
	出願手続	本学 ・ 学外 ( )		
	出願日	平成 年 月 日		

## 記入例

### 発明等内容説明書

発明等の内容について、簡潔に分かりやすく説明してください。

発明評価および特許明細書作成の資料となります。図表等については、別紙にて添付してください。

届出者所属・職名	届出者名	日付
理工学部 物理学科・教授	甲南 太郎	平成〇年〇月〇日

#### 【技術分野】

家庭用応接室の椅子、オフィスの会議室の椅子

#### 【従来技術】

※この分野でこれまで知られていた技術について、記載する。特許番号、文献名も記入し、そのコピーを添付する。

『背もたれが取り外せる椅子』

- ・ 抜き差しによって背もたれが着脱できる構造。

【特許文献1】特開01-23456号公報の構造

\*当該発明等に関する従来技術の技術・方法を、参考論文、文献、特許公報、Webサイト等をできるだけ引用して記入すること。

#### 【発明等が解決しようとする課題】

※ 従来技術の欠点・問題点、この発明等で解決できたことだけを記載する。

(1) 背もたれの取付け取外し作業がめんどろである。

(2) 取外した背もたれが紛失したり、じゃまになったりする。

(1)の問題は、左右の抜き差し部が別々であるため、(2)の問題は、背もたれ部が離れてしまうために生じる。

\*上記、従来技術・方法の欠点・問題点を簡潔に記入すること。

### 【課題を解決するための手段】

- ※ 従来技術と区分できる最小限の要件を記載する。
- ※ 数値範囲で限定する要件については好適範囲も併記する。
- ※ 実験による確認を経ているなくても、可能性のある組合せ例・変形例は数多く記載すること。

本発明では、下記の構造を組み立てて課題を解決した。

- ① 座部と背もたれを金属のヒンジで連結した構造。
- ② 背もたれを畳んだ時、裏面が平らになる構造。

### 【新しいと思われる構造】

1. 金属のヒンジを用いた。
2. ヒンジとストッパーが一体になっている。
3. ワンタッチで操作が出来る。

図1 「座席全体図およびヒンジの詳細別図」

更なる改良構造として

#### (1) ヒンジのコスト

座部と背もたれをプラスチックで一体成形して、連結部を簡易ヒンジにする。

#### (2) ヒンジ部、ストッパー部は、金属レンジであれば、指を挟む危険性あり。

- ・ヒンジ部の外周に丸みをつけ、軟質材料にする（軟質プラスチック）。
- ・指を挟む危険性のあるところに、カバーをつける。

金属ヒンジについては、フレキシブルな材料（例、軟質プラスチック）に置換しても、連結機能、回転機能があり、問題はないと考える。

### 【発明等の効果】

- ※メインの効果ばかりでなく、小さなものもできるだけ多く記載する。
- ※本発明等の好ましい態様により生じる効果も区別して記載する。

#### (1) 金属ヒンジ

座部に対して、背もたれの位置と、回転軌道を正確にする強度を保ち、耐久性を増す。

#### (2) ヒンジに一体化されたストッパー

背もたれの開き角度を正確に一定位置に保たせる。  
背もたれがグラグラしないようにした。

#### (3) 椅子の使用時には、背もたれを所定の位置に固定でき、その使用に供することができるとともに、非使用時には、容易に背もたれを折り畳めることができ、収納性に優れている。

**【発明等を実施するための形態】**

- ※ 発明等の実施の仕方を具体的に説明する。
- ※ 装置などの発明等の場合は、図面を活用すると説明が簡単になる。

本発明は、「背もたれが折りたためる椅子」である。

**【本発明で重要な要素】**

(1) 座部、(2) 背もたれ、(3) 金属ヒンジ、(4) ヒンジに一体化されたストッパー

<発明の実施の形態>

- a 人が座る座部、b 背もたれ、c 座部に固定した4本の脚、
  - d 座部の後部に固定した第1ヒンジ、e 背もたれの下部に固定した第2ヒンジ、
  - f 第1ヒンジと第2ヒンジを回転可能に結合する第1ピン、g 第1ヒンジに設けた突起部、h 背もたれが所定角度以上回転したとき、第1ヒンジの突起部にあたる第2ヒンジに設けられたストッパー
  - i 背もたれに回転可能に取り付けた肘掛け、j 座部に回転可能に取り付けたリンク、k 肘掛けの前部とリンクの上端とを回転可能に連結する第2ピン、
- aからkの以上からなる折り畳み式会議用椅子である (図1参照のこと)。

**【実施例】**

- ※ 具体例 (範囲でなく特定の点) をなるべく多く挙げる。
- ※ 構成が近い従来例がある場合には、それを比較する。  
(本発明等の効果を定量的に示すと審査をパスしやすくなる)。

本発明では、畳んだら背もたれの裏面が平らになり、テーブルとしても使用できる。具体的には、家庭用応接室の椅子、オフィスの会議室の椅子などが挙げられる。

**【産業上の利用可能性】** ※ この発明等が生かされる用途を記載する。

本発明は、家庭用応接室の椅子、オフィスの会議室の椅子など様々な分野に適用できる。

\* 上記記載の従来技術の欠点・問題点を本発明はどのように解消するか、具体的に記入することまた、実施例 (発明等の実施の仕方) をなるべく多く具体的に記入すること。

発明等の詳細及び図面は別紙として添付すること。なお、これらの内容を記録したFD (もしくはCD) とともに添付する。

## 「発明等内容説明書」の記入要領

### 【技術分野】

発明等の技術分野を明確にするために、例「本発明は〇〇するための△△に関する××」のように簡潔に説明してください。

### 【従来技術】

本発明等の技術分野に、従来はどのような技術があったのか、本発明等に近い技術や類似する技術を、特許文献番号や文献名を挙げて説明してください。

なお、可能な限り特許公報や論文、文献等のコピーを添付してください。

### 【発明等が解決しようとする課題】

本発明等が従来技術に対して、どのような点を解決すべき課題（従来技術にはどのような問題点や欠点があったか）と考えているか簡潔に説明してください。

### 【課題を解決するための手段】

本発明等における従来技術の問題点等を解決する手段の記載となりますので、詳細に説明してください。

また、数値範囲で限定する要件については、好適範囲について併記してください。

実験による確認を経ているなくても、可能性のある組合せ例や変形例は数多く記載してください。拒絶理由の回避がやりやすくなる場合があります。

### 【発明等の効果】

本発明等が従来技術に比べて優れていると思われる点を説明してください。

先述の【発明等が解決しようとする課題】中の従来技術の問題点や欠点を解決した点も、別視点から見れば「発明等の効果」となります。

### 【本発明等の実施の形態】および【実施例】

発明者が最良と思う発明等の実施の形態や実施例を、本発明等の属する技術分野の通常の技術知識を有する第三者でも実施可能なように具体的に説明してください。

実際に行った実験や試作例について、説明を解りやすく記載してください。

図面等がある場合は、それに沿って説明してください。

### 【産業上の利用可能性】

本発明等が生かされる用途・分野を説明してください。